



佐世保市営バスとしての最終便「23時27分佐世保駅前発矢峰行」と乗車や見送りのために集まった皆さん



3月23日、新たなバス運行体制スタートに向け「佐世保市交通局運行終了式」が佐世保駅前バス待合所横広場で開催されました。朝長市長が述べた式辞を抜粋・要約してお知らせします。



桜の蕾もふくらみ始め、心地よい春風が感じられる季節となりました。

いよいよ明日から、持続可能なバス路線に向けた新たなバス運行体制が始まり、本日、交通局の長年にわたる運行が終了する日を迎えることとなりました。

交通局は昭和2年に佐世保市土木課自動車係として運行を開始し、市民の皆さまの足という使命の下、90年以上にわたりバス事業を継続してまいりました。

そして、これからの変革する時代にも対応する持続可能なバス事業の実現のため、さまざまなお意見を基にシミュレーションを行い、交通局を廃止し、西肥自動車に路線を集約した上で、一部をさせばバスに運行委託し、新たなバス運行体制を構築することとなりました。

本日まで長きにわたり、市民の皆さまにご利用いただき、慣れ親しんでいた佐世保市交通局が92年の歴史に幕を下ろすことを思いますと、本当に感慨深いものがあります。これまで交通局業務に携わっていただいたそれぞれの時代の職員の皆さんに心からお労いを申し上げます。

乗合バス事業は、利用者減少などの影響から厳しい経営状況が続いており、各事業者それぞれで毎年バス本数の減便を余儀なくされてきたという経緯があります。

このたびのバス運行体制の再編により、西肥自動車におかれましては、全体的なバス体系を踏まえ、利用者の皆さまの利便性を損なわない工夫を前提として、これから3年間のダイヤ本数を確保されています。

西肥自動車とされましては、これまでも本市のみならず県北地域のバス路線維持・運行にご尽力いただいています。本市としまして、市内におけるバスの運行を継続させていくことは、西九州させば広域都市圏のバス路線を守ることにつながるものだと考えており、バス事業者と自治体が一体となり、地域の公共交通の要であるバス事業を、将来にわたり、共に守っていきたく考えています。

昭和・平成と二つの時代を走り続ける中で、厳しい時期を乗り越えながら、これまで市営バスとして長きにわたり、市民の皆さまの移動手段としての役割をしっかりと務めてくれました交通局の功績を誇りに思いますとともに、今後の佐世保市のバス事業の繁栄を心から祈念いたします。

平成31年3月23日 佐世保市長 朝長則男